

脱皮と創造を

常任理事 前愛知県常盤東小学校長 野村 鉦吉

命あるもの必ず天与の資質を持つ。しかし磨かなければ木石にも劣るもの。如何なる種子も水光熱が程よくなければ枯れてしまう。

如何なる偉業も大きな時代の流れの中にこそ育つ。個性化教育も時代の要請によく答える時に発展する。困難を乗り越える力もそこから生まれてくると確信する。

日本人として今要請されている資質とはなんだろうか。経済的繁栄の中で、国際社会で果たすべき役割と責任が増大し、実行を迫られている。貿易摩擦の構造協議、イラク動乱への貢献、日ソ国交回復などあらゆる政治外交の分野で自らイニシアチブを取り、自らの意志で主体的に行動しているものは一つもない。

日本人は調子はずれの外交や対応をする。そんな力しかない。世界に通用するような明確な論理性、一貫性、普遍性を持ち合わせずこの点では決定的に弱いのである。日本人の生活習慣、思考、態度その上に言語までが現代社会の一般通念と逆行する要素をたぶんに持って構成されている。後進国、発展途上国と言われる国々でも日本ほど国際性が乏しくはない。日本に比べて堂々としており、言うべきを言い理解もされ認められている事が多い。日本が理解されず悪者扱いされ、唯頭を下げて聞くばかりの状態に怒らないとしたら余程狂っているとしか思えない。日本特殊論に対し有効な反論も対抗処置も取れない日本人は、思想的、論理的、外交的に劣ることを証明している。

戦後45年間、民主憲法下に生きてきた。明治から西欧の文明も学んできた。だから現代文明はよく分かっていると思う人が多いであろう。ところが日本人は根本のところ、生活の原点で、教育で逆のことをして分かっていないのである。私はアメリカに1年1カ月住んでみてこの事を強く実感した。パーカー大学の外国人英語研修所において、あらゆる国々の人と同級生になり、日々国際交流の状態の中で思い知ったのである。

言語習慣の異なる人々が攻防し、交流し合っ

てきた大陸の地では誤解を避け、命と財産を守るためにイエスとノーを明確にしなければならなかった。言語、習慣、態度においてイエス、ノーの社会である。分からせるためには論理的で筋の通っており、誰にもどこでも価値が認められる一般性、普遍性を持たせる必要がある。この普遍性を交渉の武器とし戦略として使う。このために理論に強く、論争がうまい。日本では上の逆をすることが伝統的に正しくうまい処理となる。ノーを言わずに、事はぼかして荒立てず、理屈より情実で、丸くおさめる方式をとる。敗戦を終戦にすりかえ、侵略を進出に置き換え、水に流して跡を残さずを理想とする。建て前で本音は別である。

これでは国際社会で理解されようもなく、信用も得られずましてや尊敬されない。日本人は優れた高度の文化を築いてきたが国際的には通用しにくい一人よがりのものになってしまっている。戦災孤児も帰国子女も日本社会にとけこめず日本を去りたがる現実がある。日本人が外国へ行くと浮き上がってしまう。溶けこむには日本人的思考態度を捨てなければ不可能である。

この非国際性のギャップをうめる思考と行動の一つが個性化教育とも言える。日本一般の子育ての方法、こうしなさいと言う道德規範、教師と生徒の対応の仕方、勉強の目標も力点の置き所もすべてひっくり返して逆のことをしたら国際的に通用しやすくなると言っても過言ではない。

ではどうしたらよいであろうか。一つは具体的に外国人の思考、習慣、態度の違いを教える教材を作ることである。そうしないと日本人は己もわからない。日本人にとってはそれほど重大な課題である。今一つは、西欧文明が行きづまりをみせている。アダムスミスとマルクスを乗り越えるところで21世紀の新思想と戦略を創造することである。時代の求めるものに大胆に挑戦しないなら、若者の魂を奮い起こすこともできないし、魂の入った教育にもならないからである。

第6回 全国個性化教育研究連盟夏季研修会

テーマ 一新学習指導要領と個性化教育のあり方

平成2年7月30日(月)～31日(火)

於 福岡リーセントホテル・久原小学校

会・白石)

☆第1日

全国各地から福岡に集まった先生方の熱気をさますように、冷房の利いた快適なホテルの大ホールで夏季研修会が始まりました。開講式の後、上智大学教授加藤幸次先生の全体講演に移りました。「基礎基本と個性化教育の間」という演題にメモをとる手もはずみませんでした。パネルディスカッション、懇親会と進み、博多の夜へ繰り出した方々も多くみられました。そんな中で、屋台で食べた長浜ラーメンが忘れられないという声が聞かれました。

分科会B報告

「個性化教育のためのコンピュータの活用」

提案 館岡茂樹先生(国府小)

篠原彰 先生(足白小)

B分科会では、神奈川・館岡先生と福岡・篠原先生からの実戦報告を受け、意見交換を進めていった。コンピュータ活用にむけての教育課程や学習指導の整備と計画、さらには、ソフトの開発の問題などが求められているなど提出された。

やはり、各学校ともまだ日が浅いからであろうが、パソコンの台数やソフトの内容等の環境整備に関する質問が多く、個性化教育と結び付けての議論までには深まらなかった感じであった。しかし、そんな中から、コンピュータは、あくまでも道具であり「コンピュータで教える」という視点を持つ。そして、小学校の段階では、コンピュータに慣れ親しむことが重要であるので、専用の部屋を設けて鍵をかけておくのではなく、もっと身近な場所に置いて、いつでも触れることができる場の設定が大切だ。誰でもコンピュータというのではなく、コンピュータも学習材の一選択肢とすべきだなど、個性化教育と関わるものが検討されたのは、よい成果であった。(司会・平川)

☆第2日

場所を久原小学校に移してホテルとは違った雰囲気スタート。夏休み中にもかかわらず、1年生が登校して、福岡県教育センター研究主事の堤直樹先生による生活科の授業の参観。学校裏の若八幡宮で暑さも忘れて子どもたちの様子を見入りました。そのあと国立教育研究所室長の高浦勝義先生を助言者に、研究協議に入りました。活発な意見の交換で話し合いも深まりました。

分科会A報告

「小学校での個別化・個性化教育」

提案 河合剛英先生(大磯小)

池田信一先生(久原小)

初めに、河合先生、池田先生より勤務校における個別化、個性化教育の指導の実際、現状、問題点等の話を受けて質疑に入った。

個別化教育をすすめていく上での教師の教材研究のあり方(内容面・時間的な悩み)、個別化と個性化とのちがいなど様々な疑問が出され、参加者と両先生、また助言の先生方との活発な意見交換が行われた。

参加者の中には、新しくオープンスペースを持つ学校に変わったとか、近々変わる予定であるという方も多くたいへん熱心であった。(司

C分科会報告

「個性化教育からみた生活科の展開」

提案 五十子晴美先生(宮前小)

重松 宏明先生(桜原小)

本分科会では、東京の五十子先生、福岡の重松先生に実践を発表していただいた。

五十子先生の発表では、児童の興味・関心に基づいた体験を重視する生活科のねらいと近い総合学習の実践であった。

また、重松先生の発表は、生活科として実践

された内容であった。

二人の先生の実践では、やはり体験活動を重視した内容であり、子どもの自由な活動が保障されていた。また、発表会などの交流活動を組み込み、お互いに認め合う場を設けておられた。また、単元全体を通して、子どもの意欲をいかに持続させるかも大切であると思われた。

今後の課題としては、評価をどのようにするかという問題があると思われた。

子どもが生きる生活科・子どもが育つ生活科になるようにがんばりましょう。(司会・占部)

D分科会報告

「中学校での個別化・個性化教育」

提案 成田幸夫先生(上野中)
井上正博先生(太宰府西中)

まず、「中学校での個別化・個性化教育」というテーマで福岡県太宰府西中学校の井上正博先生が、日頃の研究実践を報告された。それを受けて参加者から質問や意見が出されたが、特に、「個を生かす」と「個が生きる」とは、授業レベルではどのように異なるのかという個別化・個性化教育の根本に関わることが論議された。次に、「中学校での個性化教育への一歩」というテーマで愛知県上野中学校の成田幸夫先生が、小学校における実践を活かした中学校での生の実践を報告された。それを受けて、「中学校においては、まず、何をなすべきか。」といった非常に前向きな討議がなされた。ある参加者からは、英語科における教科のパッケージ化が報告された。最後には、助言者の石坂和夫先生から「小学校における実践を範として、できることから手掛けていこう。」と実践の方向性が提言された。こうして、参加者25名の中で成功裡に終わった。(司会・段)

E分科会報告

「個性化教育と施設・設備」

提案 横太路達也先生(須恵第一小校長)
御手洗昭夫先生(須恵第一小)

加藤幸次先生を助言者に迎え将来展望が明るく見える話し合いになりました。

こうして充実した2日間が終わり、来年は東京で研修会を行うことを約束して、それぞれの教育現場に戻って行きました。



—第1日パネルディスカッション—



—第2日生活科公開学習—



—分代会A—

こんな本もお読みですか？

本会や会員がかかわって作った本を紹介します。まとめてお買い下さる方は割引をいたします。加藤(03-643-6572) 松田(0471-25-2649)まで申し込み下さい。

- ・「学力と個性の間
一個性を育てる学校教育の創造」
加藤幸次編著 ぎょうせい 1990 2600円
- ・「個性化教育読本」
全国個性化教育研究連盟編 教育開発研究所
1990 1400円
- ・「個性を生かす先生」
加藤幸次著 図書文化 1990 1300円
- ・「中学校におけるコンピュータの効果的活用」
七宝中学校著 黎明書房 1990 2400円
- ・「オープン・スペース
一人差に応じた新しい学習指導の展開」
根岸小学校著 ぎょうせい 1989 2000円
- ・「個性化教育のためのコンピュータの活用」
全国個性化教育研究連盟編 黎明書房
1989 1900円
- ・「生活科の考え方・進め方」
高浦勝義著 黎明書房 1989 1700円
- ・「ちいさな教育学」
染田屋謙相著 学陽書房 1987 1300円

オープンスタイル実践研究会のお知らせ

岐阜県・池田町立池田小学校

- ・テーマ 「個性を生かす教育の創造」
- ・期 日 11月30日(金)
- ・講 演 お茶の水女子大学教授
森 隆夫先生
「教育におけるハイテクとハイタッチ」
～生活科の文明論的構図～

- ・分科会
第1 生活科の学習
助言者 国立教育研究所室長 高浦勝義先生
第2 パソコンの教育利用
助言者 岐阜大学教授 後藤忠彦先生
第3 学習環境の活用
助言者 上智大学教授 加藤幸次先生
・参加費 1000円
・申込締切 11月10日(土)

愛知県・東浦町立緒川小学校

- ・テーマ
「学びつづける子と生活のある学校を目指して」
一総合的学習を中心とした個性化教育カリキュラムの展開とその実践Ⅱ一
- ・期 日 12月1日(土)
- ・講 演 鳥取大学教授 若狭 蔵之助先生
「生活のある学校」
一生活科・総合の意味するもの一
- ・フォーラム
1. 低学年(1.2年)の生活科・総合的学習の進め方
助言者 東京学芸大学助教授 平野朝久先生
2. 高学年(3~6年)の総合的学習の実践とその展望
助言者 名古屋大学助教授 浅沼 茂先生
3. 個性化教育カリキュラムの編成とその展開
助言者 知多教育事務所指導主事 成田努先生
4. 個性化教育の現状とその展望
助言者 上智大学教授 加藤幸次先生
・参加費 3000円
・申込締切 11月19日(月)

池田小学校と緒川小学校の研究発表会が続けてあるなんて絶好のチャンスだとは思いませんか？2泊3日の県外研修の計画を立ててみてはいかがでしょうか。11月29日の夜は大垣あたりで1泊、30日は池田小学校の発表会に出席。午後3時閉会ですから、夕方には名古屋に出られます。名古屋にもう1泊して、翌12月1日の緒川小学校の発表会へ。おまけにこの日は土曜日ですからもう1泊して、次の日曜日はプライベートな旅行も計画できます。少しは本気で考えてみる気になりましたか？それでは全個教連の会員のみなさん11月30日と12月1日にお会いしましょう。